

自由課題:緩和ケア研修会 医師受講率(がん患者の担当医/2~5年目医師)
(平成29年7月1日~12月末日)

施設名	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
4 関西医科大学附属病院	90%/100%	平成29年3月時点で、がん患者の主治医または担当医となる者①が、97.4%、初期研修2年目から初期研修修了後3年目までの医師の受講率が69.1%②となっている。8月に同研修会を実施するため、①の基準値の堅持し、②の基準値に近づけることを目標とする。 ①については未履修者の直属長に通知し、受講を促進し、②の研修医には、電話等で趣旨を説明し、受講を促進させる。	平成30年1月時点で、がん患者の主治医または担当医となる者①が、96.6%、初期研修2年目から初期研修修了後3年目までの医師の受講率が65.7%②となっている。平成29年8月に同研修会を実施し、①の基準値は堅持したが、②の基準値からは若干低下した。	①の未履修者の直属長に加えて、未履修者本人にも受講を依頼する。②の研修医にも本人に加えて、卒後臨床研修センター長に通知する。
8 大阪南医療センター	90%/100%	医長会での広報、医師へのメール発信 研修医受講の必修化 当センター開催だけでなく、府下開催日程の案内 未受講医師に対する個別的な研修案内	・がん患者の担当医:39/42(92.9%) ・2~5年目医師:14/23(60.9%) がん担当医については目標を達成している。2~5年目の医師については、研修医の受講を必須としているため当院で研修した医師は受講できているが、異動してきたがん患者の担当医にならない科の3年目以上の医師については受講を徹底させることが出来ず、目標達成には至らなかった。	未受講医師の受講医師についての確認 該当科長への情報提供
13 大阪医療センター	95%	未受講者をリストアップし個別に研修会の意義と予定を記載した書面を送り、受講を促す。	94.40%	未受講者に個別に受講を促す。他施設での開催予定表を渡す。
15 大阪市立大学医学部附属病院	2~5年目の医師 100%	院内での研修会実施はないが卒後臨床研修センターとの協同で受講を促進する	受講率は臨床研修医(59名)が88.1%、前期研究医(94名)が75.5%、医員(49名)が53.1%と目標に到達できていなかった。	各医局、卒後臨床研修センターと共同の上受講を促進する。
16 大阪府立急性期・総合医療センター	90%	関係各科主任部長および研修管理室を通して受講者の把握と未受講者への働きかけを行った。	受講率は97.6%で計画値を上回った。	4月などに人事異動が予想されるため、入職者の研修歴確認を行い、未修の場合、研修受講を働きかける。
41 りんくう総合医療センター	60%	昨年に引き続き、2年目までの研修医および受講率の低い診療科をリストアップし受講を促す。	60% 当院における緩和ケアの受講の必要性を説明し、受講を促したが、業務の都合上参加できなかった医師がいた。	次年度以降も人材育成事業に力を入れ、2年目研修医の参加を勧める。同時に、研修カリキュラムの調整も行う。
48 北野病院	目標 担当医:45% 2年目~5年目医師:30% 2016年度の受講率は、担当医37.6%、2年目~5年目医師24.1%であり、着実に受講率を上げていくことを目的として、上記に設定。	・各診療科部長からトップダウンでの受講促進を依頼する。 ・日常業務でオピオイドを使用している医師をリストアップし、優先的に受講促進できるように、がん診療委員会を通して診療科部長に受講依頼を行う。	・12月時点での受講率は担当医36.3%、2年目~5年目医師32.1%であった。 ・昨年と比較し2年目~5年目医師の受講率は目標を達成しており、各診療科部長からトップダウンでの受講促進の効果が大きかったと考える。	・未受講の医師をリストアップし、引き続き、各診療科部長からトップダウンでの受講促進を継続する。 ・日々の診療でオピオイドを使用している医師を優先的に受講促進できるようにがん診療委員会を通して診療科部長に依頼する。 ・次年度は当院で緩和ケア研修会が開催されるため、未受講者に優先的に受講を促進し、受講率を増加させる。

施設名	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
61 大阪府済生会泉尾病院	PEACE研修会の自院開催を継続し、100%の受講率を目指す。	平成29年4月に自院にて緩和ケア研修会を開催し、院内の対象者に対して参加を呼びかけた。	初期研修2年目は4/4で100%、終了後3年目までは4/6で67%、全体では8/10で80%であった。100%には満たなかったが、及第点には達したと思う。	スケジュール調整や心の準備等を勘案すれば、対象者には、可能な限り早目に周知する。